

職員の皆さんへ

早くも10月を迎えましたが、不安定な天候の中、台風18号の襲来などが予想されており、警戒が必要になるかもしれません。関係部局連携のもと市民の皆様への情報提供や避難所の準備などよろしく申し上げます。

さて10月1日から12月末までの期間を、JR九州と長崎県との連携によって「長崎 DESTINATION・キャンペーン」と銘打って、県内への観光客増大を目指した宣伝事業が開始されます。

特にJR路線のない本市にとってこのことは、交流人口の増大と極めて高い経済効果をもたらすものとして誠に有効な事業であり、接続する松浦鉄道や福岡から臨時便の増発によるJR九州高速船ビートルの就航などあらゆる輸送手段を企画し実現してくださる同社との緊密な連携を図りながら、平戸市の魅力を大いに発信してまいりたいと存じます。

またこの時期は、スポーツ、文化・芸術、そして食欲の秋と言われるように何をするにもやる気溢れる季節であり、平戸市でも数多くの関連イベントが目白押しです。

8日と9日は第10回となる「ひらどツデーウォーク」が例年通り開催され、今回初めて「九州マーチングリーグ」に登録されることになり、多くの参加者が期待できます。地域の方々とともに平戸市の景勝地をじっくり楽しんでもらえるようサポートしてまいりましょう。

さらに15日から本県で始まる第29回全国健康福祉祭長崎大会（通称・ねりんピック長崎2016）において、本市では16日より2日間、ゲートボール競技が開催され、約1千人の選手・監督、大会関係者をお迎えすることとなります。全国から集まる皆様方と市民にとって、ともに思い出に残る楽しく有意義な大会になりますよう精一杯おもてなしの心で歓迎してまいりましょう。

また、長崎県では初めての開催となる第33回センサ・マイクロマシン応用システムシンポジウムが平戸市で実施されます。電気学会や物理学会などにおけるわが国のトップレベルの研究者や事業者が一堂に会して、300人規模のコンベンションが実現できることは、大都市に負けないMICE機能を有していることを証明するものであります。また今回の開催に際して、長崎県や長崎県産業振興財団はじめ関連企業や工業系の県立高校などのご協力をいただくことができました。多くの参加者に平戸市の魅力を実感してもらうとともに、わが国の先端技術と現場への応用について理解を深めてもらうため、一般公開セッションとして「山、海、空とセンサと」と題して本市が誇る名誉市民、栗林 慧先生をはじめ6名の著名な学者による講演会が開催されますので、広く市民の皆様の参加を呼びかけてまいりましょう。

一方で毎年開催されているおなじみのイベントとして「平戸くんち城下秋まつり」が、22日と23日に開催されます。本市においては、参加事業者が最も多いメインイベントとして位置づけられすっかり定着しておりますが、今回も新たな取り組みも含めて開催されることを嬉しく思います。特に、西日本最大で長崎県では初めてとなるウォータープロジェクションマッピングは、平戸の夜の観光の可能性を広げるものであり、城下秋まつりとともに秋の夜長を楽しんでもらえることを期待します。

さらに財団法人松浦史料博物館と武家茶道鎮信流の方々により開催される「東西百菓之図とオランダ茶会」は、オランダ大使館のご支援を受け、平戸ならではの伝統文化を象徴するイベントでもあることから、世界に自慢できる「クールジャパン」の役目を担う可能性が共有できるよう支援してまいりましょう。

文化芸術面においても、9日には平戸オランダ商館を活用して「商館フェイスチェ」が今年も開催され、異文化の交流が期待されますし、商館の白壁を活用した映画の放映など新しい取組みに今後の広がりが期待できます。また同日、平戸大橋の麓にあります平戸公園では福岡などで活躍するプロミュージシャンを招聘して複数のバンドが出演する「HIRADO DISCO」が第3回目の開催を迎えます。この機会に市主催の婚活イベントも連携しておりますので、若者の定着を図る音楽イベントとして成長していくことを期待します。

さらに20日には、大島村公民館の落成記念コンサートが開催され、木管アンサンブル「ポエ」によるファミリーコンサートを楽しむことができますし、11月に向けて「青少年音楽会」「県展移動展」「宝くじ文化公演としての三味線とピアノのコンサート」が予定されており、まさに文化を原動力とした潤いのあるまちづくりを多くの市民の皆様と楽しんでいきたいと思っております。

このように例年親しまれているイベントも新たな魅力を付加して進化し、さらなる広がり可能性を有しながら定着しています。そして多くの平戸ファンが増えるとともに、テレビなどのメディアにおいても平戸の露出が多くなっています。このことは、従来にも増して「選ばれ続ける自治体」としての知名度アップが確かなものになっている証左であり、この流れと勢いをさらに拡大していかなければなりません。

そのためには、現状に慢心することなく絶えず事業の検証を行い、さらなる改良・改善を加えながら各方面のアイデアや気づきを受け入れていく心構えが重要です。これまで以上に自らのアンテナを太く長く伸ばして、情報収集に努めるとともに市民の皆様との協力体制を確固たるモノにしてまいりましょう。

なお今月10日には、長崎・佐賀・福岡3県と関係自治体および関係機関連携による原子力防災訓練が実施されます。「備えあれば憂いなし」の格言どおり、訓練したことしか実践で活かすことはできません。ご協力いただく市民の皆様や関係機関とともに緊張感をもってこの訓練を成功に導いていきたいと思っております。この蓄積こそが安心安全のまちづくりの基礎となることを今一度確認し胸に刻みましょう。

「実りの秋」にふさわしく、あらゆる分野部門において市民の皆様とともに「実り」の恩恵を享受でき、その実感を味わえる10月になることを祈念し、職員皆さんへのご努力に期待を込めて訓示といたします。

平成28年10月3日

平戸市長 黒田成彦